

第12期後半期（2012年度）活動方針（案）

12期前半期を振り返ると、日本経済は緩やかに回復してきたものの、勤労者の生活は依然厳しく経済が回復した実感が得られない中、連合群馬は頼りにされる存在を目指し、地域に笑顔があふれる活動を進めてきました。加えて3月11日に発生した東日本大震災により、日本経済に甚大なる影響を与えると同時に、勤労者の生活にも大きなダメージを与える状況となりました。

私たちは、その様な状況下でも着実に活動を進めてきた結果、産別・地協・県連合の力合わせにより、一步一步ではありますが前進できているものと考えます。

現状は12期期初の活動方針を策定したときより私たちを取り巻く環境は悪化していることを踏まえ、12期後半期は、期初に確認した方針を変更することなく、厳しい経済・雇用情勢や取り巻く環境に十分配慮しつつ着実に活動を前進させるため連合群馬の総力を挙げて取り組むこととします。

後半期の活動は、震災復興も長期化することが予想されるため、働く仲間や被災地での生活者に対する社会的役割を發揮するため、6つの重点活動にボランティア（復興支援）を加えて後半期は取り組みを進めます。

また、12期のキャッチフレーズである「キャッチ・アップ連合群馬！」に連合の震災支援のキャッチフレーズである「つながろうNIPPON」を加え、連合群馬総体として、震災支援に引き続き取り組むこととします。

具体的には、①勤労・生活者支援、②中小労組支援、③組織運営体制の強化、④仲間づくり、⑤政治活動の取り組み強化、⑥地域との連携・強化、⑦ボランティア（復興支援）の7つを重点活動とし前半期の総括やまとめを踏まえ、進捗度合いを示し積み残した課題を着実に実行し取り組みを展開することとします。

重点項目の中でも産別・地協・県連合の意識合わせも行われ、一定レベルの高い領域にあり、地域との連携が一番強い活動項目である①政策提言と実現、②なんでも労働相談、③ぐんまふれあいフェスティバルを活動の柱に据え、影響力を高め地域に根差した活動を進めることとします。

地協活動の強化やあり方を論議するため設置した地協活動検討委員会が出された答申を具体化するため産別・構成組織への理解活動を展開するとともに、地協・産別・県連合で地協活動強化に向け、力を合わせ知恵を出し合い取り組みを進めます。

また、連合群馬の役割として勤労県民への側面的な支援としてトータルライフアップや群馬県内の最低賃金の底上げに向けた責任ある対応や世論喚起等をさらに進めることとします。

県連合が取り組む県域課題への対応や地域住民との接点が一番強い地協の地域課題への対応、産別は労働条件の向上はもとより、地域の課題や県域課題に対するサポートなど、県連合・地協・産別それぞれが活動の役割と責任を果たし、連合群馬のスケールメリットを最大限発揮した取り組みを進め、元気な活動で地域社会に笑顔あふれる運動を目指します。

目指すべき姿

すべての県民が安心して暮らせる地域社会の実現

○第12期の基本目標

頼りにされる存在として地域社会に笑顔があふれる活動を進めよう！

○第12期キャッチフレーズ

つながろう NIPPON
 キヤッチ・アップ 連合群馬！

組合員・県民のニーズを的確に把握（キヤッチ）し、活動を強化（アップ）

震災支援に総力を挙げて取り組むため連合のキャッチフレーズを加えることとする

重点活動に加える

連合群馬
 総力を挙げ、
 社会的役割
 を発揮

復興支援
 ボランティア
 活動

連合群馬活動領域

